

## インフルエンザについて

インフルエンザは、インフルエンザウイルスがヒトや動物に感染することで引き起こされる感染症です。インフルエンザウイルスは抗原性の違いから、A型（哺乳類、鳥類に感染）、B型（ヒトに感染）、C型（主に4歳以下の子供が感染）、D型（牛、豚等に感染）に大きく分類されます。

国内で主に冬季に流行する人のインフルエンザは、季節性インフルエンザと呼ばれ、近年、世界的にヒトで流行している原因ウイルスは、A (H1N1)pdm09、A(H3N2)（いわゆるA香港型）、B型です。

A型インフルエンザウイルスは、表面から突き出たタンパク質のうち、重要なタンパク質であるヘマグルチニン（H1～H16の16種類）と、ノイラミニダーゼ（N1～N9の9種類）の組み合わせによって144通りの亜型に分類されます。

鳥類に対して感染性を示すA型インフルエンザウイルスによる感染症が、鳥インフルエンザです。下表のとおり三つに分類されています。

### 我が国における鳥インフルエンザの分類

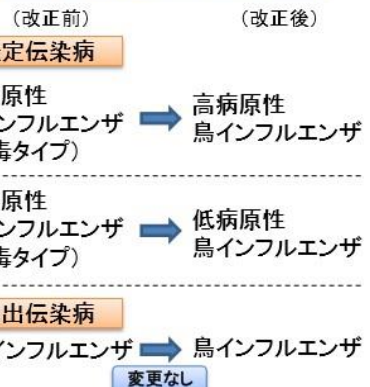
鳥インフルエンザは、A型インフルエンザウイルスが引き起こす鳥類の疾病です。

我が国の家畜伝染病予防法では、病原性の程度及び変異の可能性によって、高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)、低病原性鳥インフルエンザ(LPAI)及び鳥インフルエンザの三つに分類されています。

（平成23年4月の同法改正前は、高病原性鳥インフルエンザ（強毒タイプ・弱毒タイプ）と鳥インフルエンザに分類されていましたが、法改正を機に国際獣疫事務局（OIE）が定めている国際的な基準に合わせるため、現在の分類に変更されました。

		ウイルスの亜型	
		H5, H7	H5, H7以外
病原性	低い	<b>低病原性鳥インフルエンザ(LPAI)</b> 対象種：鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥	<b>鳥インフルエンザ</b> 対象種：鶏、あひる、うずら、七面鳥
	高い(※)	<b>高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)</b> 対象種：鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥 OIEの診断基準(※)に準じて判定	

#### 家畜伝染病予防法の改正に伴う変更 (H23年4月)

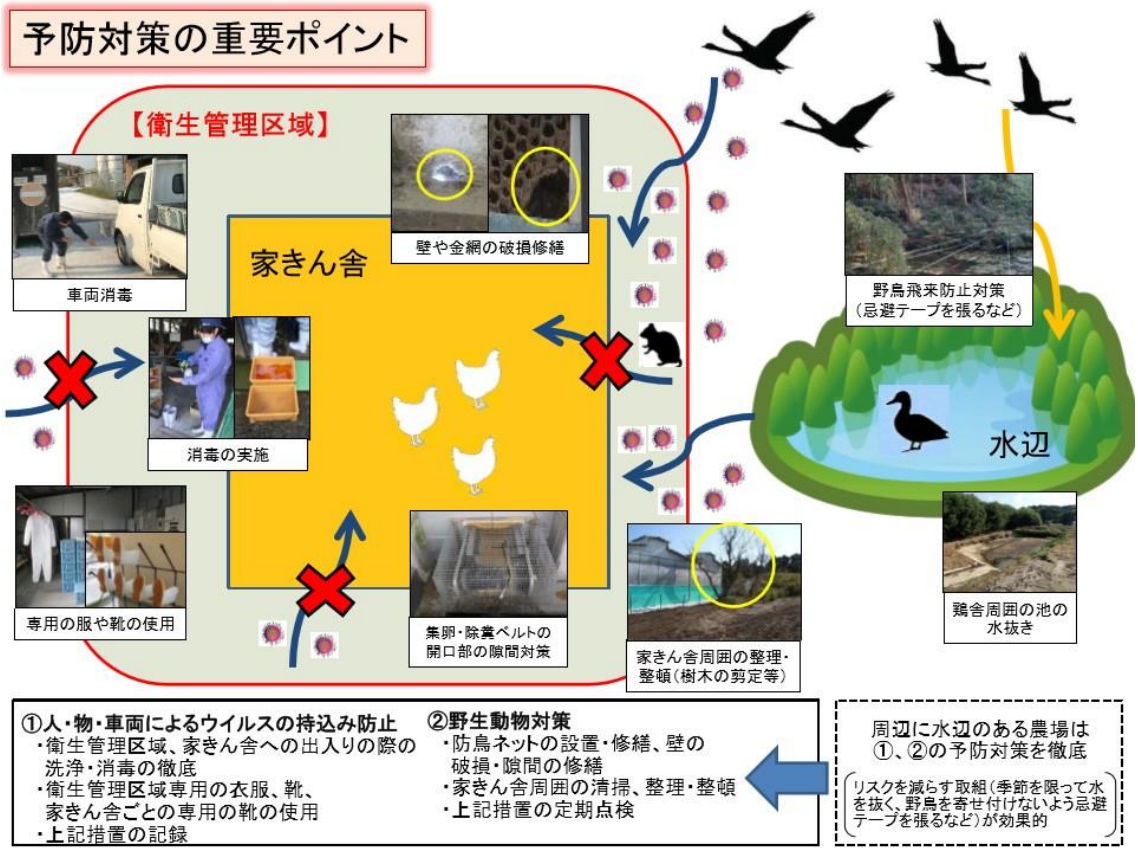


※次に示すOIEの診断基準(高病原性鳥インフルエンザ)のいずれかを満たした場合に、病原性が高いと判定

①6週齢鶏の静脈内接種試験で病原性指標(IVPI)が1.2以上又は4～8週齢鶏の静脈内接種試験で75%以上の致死率を示す。

②H5又はH7亜型のウイルスで、特定部位のアミノ酸配列が既知のHPAIウイルスと類似している。

鳥インフルエンザの予防対策は、何と言っても「飼養衛生管理基準の遵守」です。「罹って泣くよりも予防！」を合言葉に野生動物の侵入防止のため、防鳥ネットの補修、金網や壁の穴の修繕、畜舎周辺の石灰散布等の対策を実施しましょう！



農林水産省ホームページより抜粋

**人もインフルエンザ対策をしましょう！**

9月のインフルエンザ患者数は、例年の同時期と比べると約10倍前後になっています。インフルエンザの予防対策は、早めにインフルエンザワクチンを接種すること、手洗いを励行することなどがあります。ワクチンを接種すれば、罹っても症状が軽くなるといわれておりますので、なるべく10月中に接種しましょう。

**近隣諸国における悪性伝染病発生情報**

病名	発生地(国)	畜種	発生年月日
アフリカ豚コレラ	中国(2件)	豚	令和元年(2019年)9月1日 ～令和元年(2019年)9月30日
	韓国(9件)	豚	令和元年(2019年)9月17日 ～令和元年(2019年)9月27日

令和元年(2019年)10月1日時点

**毎月20日はくまもと家畜防疫の日**

定期的な消毒を実施しましょう！

